

あんぜん便り

〈発行所〉公益社団法人 郡山市シルバー人材センター
安全・適正就業委員会

第33号

平成29年10月1日発行

安全就業とシルバーの役割

安全・適正就業委員会は、今年度も七月下旬に先ず、植木・除草班の就業現地を安全パトロールしました。就業上の諸点検と確認を行った結果は、巡回先一部をのぞき問題なく、適正の評価でした。猛暑の時期、屋外作業に携わる会員には、健康管理が大事ですが、特に熱中症や蜂対策について備えを怠らぬ様、注意と指導の強化に努めました。

また、植木剪定中に、三脚脚立から転落事故死する事例が発生していることを踏まえ（厚労省通達）、就労中の留意と事故未然防止方、周知を徹底しました。

就業会員の方から、センターに対する要望等を伺う中で、発注先から作業が終了して「綺麗になりました。有難うございます。また宜しく頼みます」と感謝の言葉をかけられるのが一番嬉しい。と語っていたことが心に残りました。そしてある班長からは、植木班同士の連携を強める必要性を感じている。との提言もあり、生きいきと働くシルバーの頼もしさを、垣間見る思いがしました。

多様な職歴・技能を有し、知見と豊かな経験を持つシニア世代。人手不足の時代に、働き方にも変化が見られますが、これを支えるシニアの働き手としての役割は不可欠であり、シルバー人材は潜在的労働力として、その役割の一端を担っています。時代に対応し地域に貢献しつつ、生きがいの充実を図りましょう。会員必携の安全就業ハンドブック（手帳）は、ポケットなどに入れて携帯し、常に安全を確認して就業しましょう。

（委員会）

安全標語

安全は
人にたよるな

まかせるな

事故防止

急ぐなあせるな

気を抜くな

（全国シルバー人材センター事業協会）
気いつけつけないわが命を
守つて
あせつてとろくな事ねえぞい
心つくりやつぱ
（郡山市シルバー人材センター安全委員会）

賠償事故発生件数

(H29年4月～H29年9月)

1件（就業中1件、途上0件）
※うち刈払機による事故0件

〔 H28年度13件（1年間）
うち刈払機による事故8件 〕

傷害事故発生件数

(H29年4月～H29年9月)

2件（就業中2件、途上0件）
※うち重篤事故（骨折0件）

〔 H28年度3件（1年間）
うち重篤事故（骨折0件） 〕

事務局からのお願い

就業途上及び作業中の事故については、必ず事務局へ報告をしてください。

●交通安全について




ヒヤリ・ハットの体験

- ①就業先に行く途上、心配事があり考え事をしていて赤信号なのに発進した。
- 横断歩道を渡り始めた歩行者と接触しそうになった。
- ▶運転中は安全運転のみに集中すること。



●蜂について

刺す蜂の代表的な蜂と刺される危険な時期

スズメバチ	アシナガバチ	ミツバチ
		
※危険な時期 7月～10月	7月～8月	通年

蜂の脅威から身を守るための服装等

- ①身体を露出させない。
- ②白や黄色等の明るい色の服装（作業着は長袖・長ズボン）等を着る。
- ③スズメ蜂は黒いものに激しく反応した香水や化粧品等の匂いに敏感。
- ④蜂が近づいてきたら危険区域から早く遠ざかる。

☆就業現場を下見する予防保護具



蜂に刺されたときの応急処置

- ①蜂に刺されたら速やかにその場から離れる。
- ②毒針が残っていたら、速やかに取り除き、患部の周辺を指で強くつまみ、毒を押し出す。
☆毒吸引器（ポイズンリムバー）は、蜂・ヘビ・毒虫の毒液や毒針を体外に吸出すのに有効。
- ③冷水で患部を冷やし、毒が体内に回るのを抑制する。
- ④赤くはれ始めたら、抗ヒスタミン軟膏を塗る。

☆禁止事項●①アンモニア水および尿をかける。 ②汚れた手でさされた箇所をいじる。

症状が悪化した場合

- 「119番」の連絡を行い、一刻も早く医師の手当てを受ける。
- ▶①安静に搬送する。 ②仰向けにしてベルトを緩め楽にする。 ③頭を低くし、吐気がある場合は横向きにする。

イラストは(公社)全国シルバー人材センター事業協会（安全就業のためのチェックポイントより転載）